

鹿児島県小中学校長研究大会 分科会記録

○ 日 時 令和6年11月15日(金) 12:35~14:00

○ 分科会 I 小学校 第8分科会

「国際理解教育」「環境教育」

○ 研究主題

『広い視野で考え、実践力を高める国際理解教育及びキャリア教育』

○ 協議題

～人間理解を基調とし、異文化に触れたり外国語によるコミュニケーションの基礎となる資質・能力を高めたりする国際理解教育の推進～

「子供に夢や目標を持たせるキャリア教育の在り方」

○ 発表者 垂水市立新城小学校 有村 重輝

○ 司会者 垂水市立松ヶ崎小学校 西 武久

○ 記録者 垂水市立柊原小学校 竹井 敏秀

#### 【質疑応答】

(質問：大龍小 原口 雅也)

・マイクラフトの良さ・効果・他校への広がりには、どのようなものがあるか。

・キャリアパスポートの中学校との連携の現状はどうか。

(応答：新城小 有村 重輝)

・ビジュアルプログラミングのブロックを動かせるので子供たちも扱いやすい。地域の課題へ取り組みやすい。有償で行っているため、市全体としての取り組みは、今後の課題である。

・キャリアパスポートは、卒業時に引継ぎを行っている。

・

#### 【グループ討議後の班ごとの発表】

(E班：協和小 弓指 修)

・国際理解・キャリア教育については、地域(農業・産業・文化)との連携が重要である。

・高校生の活用を積極的に推進することが有用だと考える。

(B班：西出水小 坂之上 辰志)

・英語については、児童に浸透していないのではないか。楽しみが減り、書くことへの抵抗があるためか。

・今後、地域に日本語を話せない外国出身者が増えてくるのではないか。家庭環境調査票など書いてもらう

のに、課題等が出てくるかもしれない。

・キャリアパスポートについては、児童が主体的に取り組めるように学級活動で積極的に取り組むほうが良いのではないか。賞状等の写真も保存すること、自己肯定感も高まると思う。地域とのつながりについては、学校運営協議会を通じてお願いすることも大切ではないか。

(G班：垂水小 北川 政人)

・SET 加配については、授業充実または業務改善につながっている。観光客相手に児童が積極的に交流をもつ学校がある。

・夢を掲示し、自己肯定感を高められる取り組みをしている学校がある。

・校長として、キャリア教育の視点で話をしていくことも大切である。

#### 【指導助言】

県教育庁高校教育課学校教育ICT推進班指導主事

時任 志郎

・教科横断的グランドデザイン、コミュニケーションの能力の育成、郷土教育の視点での研究をされていたが、市・地域の協力を得ながら、児童が主体的に取り組む、夢を持って取り組める環境を構築できているところがよかった。

・グローバルな解決を推進するためには、日本人としての誇りをもつことが大切である。

・マイクラフトの取り組みについては、児童が本当に楽しく取り組んでいる姿が素晴らしいと感じました。

・いつでも児童生徒が学ぼうとするとき、その環境を整えてあげるのが、我々学校現場で働く教職員の務めである。

(記録 柊原小 竹井 敏秀)

鹿児島県小中学校長研究大会 分科会記録

○ 日 時 令和6年11月15日(金) 14:15~15:35

○ 分科会Ⅱ 小学校 第8分科会

「情報教育」

○ 研究主題

「広い視野で考え、よりよい社会を協働して形成していく実践力を高める国際理解教育、環境教育、キャリア教育、情報教育」

○ 協議題

「情報活用能力の育成と情報モラル教育を踏まえた情報教育の推進」

○ 発表者 南さつま市加世田小学校 喜島 宏明

○ 司会者 南さつま市立小湊小学校 小島 俊明

○ 記録者 南さつま市立川畑小学校 宮ノ前 香織

#### 【質疑応答】

(質問：明和小 松久保 鉄也)

- ・ グーグルサイトは、どの学校でも作成し活用することができるか。

(応答：加世田小 喜島 宏明)

- ・ 可能である。今年度の短期研修で学び、利活用している。加世田小のグーグルサイトのQRコードを配布資料に添付してあるので、県域ドメインでアクセスしてみしてほしい。現在の運用は、校長が行っているが、引継が必要な場合も想定し、その準備も同時に進めている。

(質問：明和小 松久保 鉄也)

- ・ パワーポイント資料中の「学習の基盤となる情報活用能力の育成段階表」は、どのように作成されたものか。これまで目にしたことがなかったので、明確な出所があれば参考にしたい。

(応答：加世田小 喜島 宏明)

- ・ 文科省と熊本市の実践を参考にし、作成した。

(質問：油久小 池田 洋子)

- ・ タイピングスキルの向上のための特化した時間を設定しているか。

(応答：加世田小 喜島 宏明)

- ・ 特化した時間の設定はしていない。市全体で導入されている「キーボー島アドベンチャー」やアクセスが可能なタイピングレッスンのできるサイ

トを活用して、各教室でできる時間に行っている。

(質問：油久小 池田 陽子)

- ・ 夏季休業中に校内で実施した校長室におけるミニ研修会について詳しく知りたい。

(応答：加世田小 喜島 宏明)

- ・ 参加を希望する職員のみで、少人数で複数回行った。PCやタブレット端末を活用することに苦手さを感じている職員もいるので、共に作業をし、できるようになるまで待つことを心がけている。グーグルサイトはお気に入りに追加させ、いつでも開けるようにしている。校内研修の他、南さつま市では、市教委が主導してのオンライン研修会もこれまでに18回ほど実施され、またICT支援員の派遣もあるので、充実した研修ができています。

#### 【グループ討議後の班ごとの発表】

(L班：川尻小、竜門小;発表、宮浦小)

- ・ 南さつま市が早くから組織的に情報教育が進んでいることは知っていたが、更にシステム化されていることに驚き、うらやましさも感じる。ソフト面もハード面も市町村によって課題も多く、難しい面も多いが、とにかく児童にも職員にも使わせることでスキルやモラルの向上を図るべきであることを、一層強く感じている。

(I班：上市来小、中福良(霧)、星原小;発表、柘原小))

- ・ 実践が足りていないことを実感したと同時に、各市町村で実態が大きく異なっている状況が明確になった。市町村全体でベクトルが同じであれば、南さつま市のように推進も早く深い。予算化等の影響が非常に大きいと感じる。モラルについては、学校外のSNS上のトラブルについてどこまで立ち入るべきかが話題に出た。

#### 【指導助言】

県教育庁高校教育課学校教育 ICT 推進班指導主事

時任 志郎

- ・ 教育版マイクラフトやグーグルサイトの活用等、校長自らが率先してICTを活用し、職員へ情報を提供したり苦手な職員に寄り添ったり等、参

考にしたいすばらしい実践である。

- タブレット端末の児童主体の活用が全国的な課題である。全国学力・学習状況調査質問紙において、活用率は全国よりも高いが、教師と児童の活用の実感度に差がある。教師主導だけでなく、児童自らが日常的に文房具の一部として、また学習のツールとして、更に活用を図るべきである。
- タブレット端末は、個別最適な学びや協働的な学びを推進する上でも必須アイテムである。また、働き方改革を実証する上でも大きな役割をもつことを常に意識することが大切である。
- 子どもたちの「未来」「これから」「あした」とつながるこれからの社会像として、
  - ① 持続可能な社会づくり
  - ② 多様な子供たち一人一人の豊かで幸福な人生
  - ③ グローバルな協働
  - ④ 変化の加速化・非連続化・生涯にわたって学び続ける力
  - ⑤ 想像以上の速さで変化することをチャンスと捉える力
  - ⑥ セーフティネットとしての学校の本質的役割の再認識が挙げられる。何故目指すのかを明確にし、意識をもち続けることが大切である。
- 学習指導要領前文にもあるように、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するためにも、「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」の3つを合わせた学力を育てることが重要である。